

令和4年4月

令和4年度 工学部 教育課程表の改訂

[工学部 令和3年度以前入学者用]

1. 令和3年4月に本学第2学年より第3学年に進学した者、および第2学年と第4学年の学生は、既に配布された「学部履修案内」を「令和4年度 工学部 教育課程表の改訂」（以下の表）に従って修正した上で履修する。

但し、下表には記載できなかった履修情報（例えば、廃止科目の履修方法）もあるので、混乱が生じないように科目担当教員等と十分に相談の上、履修計画をたてること。

2. 過年度に休学した者・留年した者・本年度に再履修する者については、基本的には上記1に従うものとするが、状況に応じた個別対応が必要なので、科目担当教員等と十分に相談した上で履修申告を行うこと。

課程	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
全課程 (授業科目・単位・開講時期)	○2		授業科目・単位・開講時期等				を下記のとおり改訂する。 (新) (単位の計算方法) ～略～ (授業期間) (3) 授業期間は、学年暦により定めており、1学期、2学期及び3学期の3学期制である。 [学期の区分] 1学期：4月1日～8月31日、2学期：9月1日～12月31日、3学期：1月1日～3月31日 を追記し、以下番号を下げる。 (授業時間割表) (4) 授業時間割表は、学年の始めに掲示するとともに、公式ホームページ上に掲載されるのでこれに基づいて各自の履修計画を作成することになる。(URL： https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/jyugyou/timetable.html) (旧) (単位の計算方法) ～略～ (授業時間割表) (3) 授業時間割表は、学年の始めに掲示するとともに、全学生に配付されるので、これに基づいて各自の履修計画を作成することになる。
	○3		履修方法				を下記のとおり改訂する。 (新) (2) 履修しようとする授業科目は、1学期始め、2学期始めの履修申告期間にその学期から開始される科目で履修を希望する科目(集中講義を含む)すべて履修申告をしなければならない。3学期科目に関しては2学期始めの履修申告期間に履修申告をすること。 (3) 学年の始めに学務課から「授業時間割表」が公式ホームページ上に掲載される。 (4)～(8)省略 (9) 集中講義科目は履修申告期間に実施日程が決まっていないことがあるが、上記(2)のとおり履修申告をしなければならない。 この場合、科目ごとに履修取消し期間を設けるので、受講を取りやめる場合は手続きを行うこと。集中講義科目の履修取消し方法や期間については掲示等で案内するため留意すること。 (10) 集中講義科目で日程の全部または一部が他の授業科目と重複する場合の履修は認められないため、履修取り消し期間に履修取消しすること。履修取消しせず、両方の科目を受講していたことが明らかとなった場合は、両方の科目が不合格となることがある。 を追記し、以下番号を下げる。 (旧) (2) 履修しようとする授業科目は、集中講義を含むすべて履修申告をしなければならない。 (3) 学年の始めに学務課から「授業時間割表」が配布される。

課程	区分	必選 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
全課程 (授業科目・単位・開講時期)							<p>○5 再履修 を下記のとおり改訂する。</p> <p>(新) 定期試験等で不合格となった科目のうち、修得を必要とする科目は、原則として次年度に再履修しなければならない。なお、再履修しようとする科目についても履修申告をすること。</p> <p>(旧) (1) 不合格となった科目の単位を修得するためには、その科目を再履修しなければならない。 (2) 再履修をしようとする場合は、前記3履修方法により手続きを行わなければならない。 (3) 再履修科目が他の履修科目と重複するときは、再履修科目担当教員の許可があったときに限り、重複履修が認められる。この場合、「再履修科目届」を授業開始後1週間以内に、学務課に提出しなければならない。 (4) 再履修科目が演習、実験・実習を必要とする科目及び外国語科目である場合は、原則として重複履修は認められない。</p>
							<p>○6 再履修による重複履修 を追記し、成績の評価と単位の授与 以降の番号を下げる。</p> <p>(新) 6 再履修による重複履修 再履修科目が授業時間割上重複する場合は、授業科目担当教員の許可を受け、「再履修による重複履修届」を授業開始後1週間以内に学務課に提出すること。再履修科目が演習、実験・実習を必要とする科目及び外国語科目である場合は、原則として再履修による重複履修は認められない。</p>
							<p>○16 大学院への進学 を下記のとおり改訂する。</p> <p>(新) (1) 本学の教育課程は、大学院までの一貫教育を前提として編成されているので、すべての学生は大学院に進学できるよう常日ごろ努力しなければならない。 (2) 本学大学院進学について、次の事項を承知しておくこと。 ① 本学大学院修士課程並びに5年一貫制博士課程への進学にあたっては、下記のとおり学内入試が行われる。 学内入試には、推薦入試と学力入試があり、推薦入試は、課程の推薦を受けた者が受験でき、その他の者は学力入試の対象となる。 なお、推薦についての詳細は、各課程の担当教員から説明が行われる。 また、上記入試の出願時期は、例年6月中旬の予定となっている。 ② 修士課程並びに5年一貫制博士課程の【一般入試】における第2回募集の出願時期は、それぞれ10月下旬並びに8月中～下旬の予定となっている。 なお、【一般入試】における第3回募集の実施の有無については、12月上旬に決定し本学公式HPで公表する。第3回募集を実施する場合、出願時期は1月中～下旬を予定している。</p> <p>(旧) (1) 本学の教育課程は、大学院までの一貫教育を前提として編成されているので、すべての学生は大学院に進学できるよう常日ごろ努力しなければならない。 (2) 本学大学院進学について、次の事項を承知しておくこと。 ① 本学大学院への進学にあたっては、下記のとおり入試が行われる。 入試には、推薦入試と学力入試があり、推薦入試は、課程の推薦を受けた者が受験でき、その他の者は学力入試の対象となる。 なお、推薦についての詳細は、各課程の担当教員から説明が行われる。 また、上記入試の出願時期は、例年6月中旬の予定となっている。 ② 修士課程並びに5年一貫制博士課程の第2回募集の出願時期は、それぞれ10月下旬並びに8月中～下旬の予定となっている。 第2回募集の結果後、定員に余裕がある場合は、第3回募集を行う。その場合、第3回募集の出願時期は1月下旬の予定となっている。</p>

課程	区分	必選 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
全課程 (教養科目 履修案内)	○8.		「ボランティア実践活動」の単位認定について	を	下記のとおり	改訂する。	<p>(新)</p> <p>(1)履修申告等 ①「ボランティア実践活動計画書」の事前提出をもって履修登録に代える。計画書の様式は学務課にある。 実際の活動にあたっては、事前に計画書を課程主任の承認を経て共通教育センター長に提出し、その承認を受ける。ただし、災害救助・復旧支援ボランティア実践活動等（以下、災害ボランティア等）特別な事情がある場合は事後に提出することができる。 ②活動終了後、下記書類を共通教育センター長に提出する。共通教育センター長は提出された書類で成績評価を行う。 1) ボランティア実践活動時間を証明するボランティア団体等の責任者の証明書。ただし、災害ボランティア等特別な事情がある場合には、活動を確認できる何らかの証拠を示すことで、これに代えることができる。 2) ボランティア活動レポート（当該実践活動の社会的意義、そこから得た自己の向上に関する見解を含めること）</p> <p>(2)活動形態等 活動対象は学生が探し、公共団体及びボランティア団体等責任の所在が明確な団体の主催・管理する活動に参加する。 ②活動対象は学生が探し、実際の活動にあたっては、事前に「ボランティア実践活動計画書」を各課程主任等の承認を得て、共通教育センター長に提出し、その承認を受ける。ただし、災害ボランティア等の場合には、事後に提出することができる。</p> <p>(3)省略 (4)認定単位数等 ④ 単位認定する際の成績評価は「G」とする。 を追記。</p> <p>(旧)</p> <p>(1)履修申告等 ① 学年始めの履修申告期間に履修申告（科目登録）を行う。ただし、災害救助・復旧支援ボランティア実践活動等（以下、災害ボランティア等）特別な事情がある場合は、上記の期間に限らず、各課程主任等の承認を得て、共通教育センター長に申し出て履修申告をすることができる。 ② 科目登録は、在学期間中有効とする。</p> <p>(2)活動形態等 ①公共団体及びボランティア団体等責任の所在が明確な団体の主催・管理する活動に参加する。 ②活動対象は学生が探し、実際の活動にあたっては、事前に「ボランティア実践活動計画書」を各課程主任等の承認を得て、共通教育センター長に提出し、その承認を受ける。ただし、災害ボランティア等の場合には、事後に提出することができる。 (3)、(4)省略</p> <p>(5)成績評価方法等 ① 科目登録をした学生は、活動終了後、下記書類を各課程主任等を経て、共通教育センター長に提出する。 1) ボランティア実践活動時間を証明するボランティア団体等の責任者の証明書。ただし、災害ボランティア等特別な事情がある場合には、活動を確認できる何らかの証拠を示すことで、これに代えることができる。 2) ボランティア活動レポート（当該実践活動の社会的意義、そこから得た自己の向上に関する見解を含めること） ② 単位認定する場合の成績評価は「G」とする。</p>

課程	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
全課程 (外国語科目等履修案内・別表1 外国語単位認定表)			1. 外国語科目 (1) 英語 を下記のとおり改訂する。				(新) 最終段落 ただし、上記による単位の振替え以外の～することがある。 を削除。
							(新) 英語開講科目一覧 科学技術英語（機械創造工学課程）を3学年の欄に移動
			別表1 外国語単位認定表 を下記のとおり改訂する。				外国語能力試験名称 「TOEIC」→「TOEIC L&R」 「工業英語能力検定」→「技術英語能力検定」 に改訂

課程	区分	必選の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
全課程 (教養)	教養発展 (社会管理科学 系発展科目)	選択	ビジネスとマネジメント	2	3・4	2	新設
	教養発展 (社会管理科学 系発展科目)	選択	社会福祉概論	2	3・4	1	開講学期変更 1学期→2学期
	教養発展 (社会管理科学 系発展科目)	選択	国際情勢概論	2	3・4	1	廃止
	教養発展 (複合領域)	選択	技術者フロンティアへの招待：安 全・経営・生命の視点から	2	3・4	2	廃止
	教養社会活動科 目 (社会活動基盤 科目)	選択	企業に学ぶ社会人力講義	1	3・4	1	令和4年度開講せず

課程	区分	必選の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
全課程 (外国語)	○外国語科目履修案内の改訂						
	英語	選択	Practical English	1	4	1	令和4年度開講せず
	海外研修英語	選択	海外研修英語 1 A	2	2～4	3・1	単位数変更2→1

課程	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
機械創造	○課程別履修案内の改訂						
	専門	選択 (一 般選 択)	信頼性工学	2	3	2	廃止

課程	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
電気電子情報	○課程別履修案内の改訂						
	専門	選択	電気法規及び電気施設管理	2	4	1	開講学年・学期変更 4学年→3学年 1学期→2学期
	専門	選択	デバイス工学Ⅲ	2	4	1	廃止
	専門	選択	オペレーティングシステム	2	3	2	廃止

課程	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
環境社会基盤	○課程別履修案内の改訂						
	専門	第三 選択	土木地質学	2	4	1	廃止
	専門	第三 選択	Transportation Economics	2	4	1	科目名変更 Transportation Economics→ Transportation Economics with Python Transportation Economicsの修得者は Transportation Economics with Pythonを履修できない
	専門	第三 選択	資源エネルギー循環工学	2	3	2	開講学期変更 2学期→1学期

課程	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
情報・経営システム	○課程別履修案内の改訂						
	専門 (選択科目群 Ⅰ)	選択	人工知能論	2	3	2	開講学期変更 2学期→1学期
	専門 (選択科目群 Ⅰ)	選択	情報・経営数理工学Ⅱ	2	3	2	令和4年度開講せず
	専門 (選択科目群 Ⅱ)	選択	意思決定論	2	3	1	令和4年度開講せず

課程	区分	必修 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
アドバンス トコース	○アドバンストコース科目履修案内の改訂						
	ステージ2 (技術者力科 目)	選択	技術者フロンティアへの招待 安全・経営・生命の視点から	2	3・4	2	廃止
	ステージ2 (技術者力科 目)	選択	企業に学ぶ社会人力講義	1	3・4	1	令和4年度開講せず
	ステージ2 (国際人間力科 目)	選択	国際情勢概論	2	3・4	1	廃止
	ステージ3 (国際人間力科 目)	選択	国際情勢特論	2	修士	2	廃止
	ステージ3 (国際人間力科 目)	選択	Japanese Industrial Development Experience	2	修士	2	科目名変更 Japanese Industrial Development Experience → Japanese Industrial Development Experience and SDGs
原子力安全 工学コース	○コース名変更 原子力安全工学コース→量子・原子力工学コース 令和4年度以降にコースに所属する学生に適用						
	コース特別科目	必修	原子力工学実践	2	3	1	科目名変更 原子力工学実践 → 量子・原子力工学実践
e-ラーニング	○e-ラーニング科目履修案内の改訂						
	教養	選択	e-数理・データサイエンス・人 工知能への誘い	2	1・2	2	新設
	教養	選択	e-健康のためのスポーツ科学	2	1	2	令和4年度開講せず
	教養	選択	e-スポーツ科学と倫理	2	1・2	2	令和4年度開講せず
学術交流協 定に基づく 特別聴講学 生科目	○学術交流協定に基づく特別聴講学生科目履修案内の改訂						
	機械創造工学課 程	選択	Fluids Engineering	2	3	2	令和4年度開講せず
	物質材料工学課 程	選択	物質材料工学概論	1	3・4	2	廃止
	物質材料工学課 程	選択	専攻科特別実験	2	3・4	2	廃止